

平成31年度 学校自己評価表

鳥取県立米子西高等学校

学校教育目標	質の高い授業と親身な指導を通して、進路実現に必要な学力をつけるとともに、地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する「知・徳・体・志」のバランスのとれた人材を育成する。	今年度の重点事項	1 自己実現を可能にする学力の向上 2 基本的生活習慣と社会的規範意識の確立 3 安心且つ切磋琢磨できる人間関係の構築 4 保護者・地域と連携した活力ある学校づくり
--------	--	----------	---

評価項目	具体項目	現状	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 自己実現を可能にする学力の向上	主体的に学習に取り組む意欲・態度の育成	真面目で素直であるが、積極的・主体的に取り組む意欲に乏しい生徒が多く、授業改善や探究的な活動を通して、主体的に学習する意欲や態度を育成することが必要。 「みらいチャレンジ活動」も3年を経過して形はできてきたが、自分の問題として課題設定をしたり、フィールドワークや聞き取りなどを実施し、問題解決を探究するグループは少なく、単なる調べ学習で終わってしまっているものが多い。	地域の資源を活用した多様な教育活動により、生徒の主体性を育成する。 授業の質的改善に取り組み、主体的に学びに取り組んでいると答える生徒が65%以上になる。 (R2:75%、R3:85%)	「総合的な学習の時間(みらいチャレンジ活動)」の充実と成果発表会により、生徒に達成感・効力感を獲得させる。 主体的・対話的で深い学びの推進と授業研究会の充実を図る。 授業でタブレット又は電子黒板を利用する教員が50%以上	C	・成果発表会とハイレベル講座を同時開催 ・成果発表会は地域課題改善コース3グループ、課題研究コース1グループが発表した ・アクティブ・ラーニング推進月間の研究授業、授業研究会を新方式で実施 ・生徒アンケート 意欲的に授業に取り組んでいる 70% 学校の課題以外に自らの課題に取り組んでいる 45% ・1月末現在におけるタブレット利用率は45%	B
	進路指導の充実	国公立大学現役合格者数が48名・難関私立大現役合格者18名であり、目標を下回った。	国公立大学現役合格者50名 (R2:55名、R3:60名) 難関私立大学現役合格20名 (R2:25名、R3:30名)	学年団と進路指導部との連携を密にし、面談等を通して生徒一人ひとりに応じた進路指導丁寧に行う。		・2月18日現在、国公立大学合格者(推薦・AO) 15名 難関私大合格者 13名 ・センター試験平均点は数値目標を大きく下回った 数値目標65%以上30名に対して 8名 60%以上45名に対して14名	
2 基本的生活習慣と社会的規範意識の確立	基本的生活習慣の確立	時間に余裕をもって行動する生徒が減少傾向にあり、集会等で社会性の向上に係る指導を行うとともに、自律した態度を育成する必要がある。	年間の遅刻者数が、1学級あたり平均で延べ38回未満 (R2:35回未満、R3:30回未満) 規範意識の向上と挨拶・掃除の徹底	様々な場面で、生徒が自律的に行動のできる仕掛けを考案する。 職員の挨拶の励行と生徒が主体となった「あいさつ運動」を展開する。 掃除を徹底し、校内美化に努める。	C	・12月末遅刻者数は、1学級あたり平均で延べ29回 ・遅刻届の導入 2/3～ ・挨拶をする生徒は4月当初よりは多少増加 ・清掃については概ね良好 ・生徒による挨拶運動は、マナーアップ運動時2回と10月に硬式野球部の協力で1W実施	B
			部活動は活発に行っており、本校の活性化につながっている。普通科高校として適正な部活動を行うとともに、部活動を通して人間力を高めることが必要である。 真面目な生徒が多いが、自信を持ち、他者を認める気持ちを育成する必要がある。	部活動と学習が両立できる生徒を育成する。 運動部全国・中国大会20競技以上、文化部全国大会5部門以上出場 SNSトラブルによる生活指導委員会の開催が3件以下 自己肯定感の高まりを感じる生徒が65%となる。 (R2:70%、R3:75%)		・概ね本校部活動方針に沿った部活動運営ができている ・1月末現在 全国・中国大会出場 運動部 28競技 文化部 11部門 ・SNSトラブルはなかった。インターネット利用について生徒会が箕牧屋中学校生徒会と情報交換会実施 ・hyper-QU2回目 学校満足度 58% ・生徒アンケート 今の自分に満足している 45% 自分が他者の役に立っていると思う 50%	
3 安心且つ切磋琢磨できる人間関係の構築	自尊感情の育成			本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。学校業務改善の取組を進め、生徒指導の充実を図る。 講演や集会・授業等を通して注意喚起と情報リテラシーの育成を図る。 e-ポートフォリオを活用し自らの成長を実感できる仕組みを構築する。 hyper-QU検討会、事例検討会を開催して、具体的な生徒対応を進める。	C		B
				「総合的な探究の時間」と「総合的な学習の時間(みらいチャレンジ活動)」の接続を考案するとともに、成果発表会を充実させる。			
4 保護者・地域と連携した活力ある学校づくり	地域資源を活用した教育活動	地域資源の活用など、積極的な地域連携が望まれている。	地域資源を活用した体系的・組織的な教育活動を考案する。	中高連携事業を拡大し内容を充実する。総合芸術祭「翠燦く」を開催し、広報活動を充実する。	B	・米子市と「ふるさと教育における連携に関する協定」締結 ・生徒アンケート 外部の人財等を活用し、多様な教育活動を行っている 74%	B
	学校の魅力・特色の情報発信	地域の中学校と連携するなど、本校の魅力を地域に発信する必要がある。	中高連携芸術活動事業の5回実施、及び中学生20名以上の参加		C	・「翠燦く」は初めて米子市公会堂開催、テーマ「勢」のもと各部活動とも準備中 ・保護者アンケート 本校は魅力を地域に発信している 52%	B

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要